



議会図書室からのお知らせ

☑ 本のタイトルには、出版社の本の紹介のリンクが貼ってあります。出版社での紹介がないものは貼っていません。

今月の新着図書
R8年6月（一般用）

『ジェンダーで学ぶ政治学』

三浦 まり・岡野 八代【編】/世界思想社 (2026/4)



なぜ政治家は男性ばかりなのか？なぜ政治は「ケア」を不可視化するのか？政治の思想と仕組みから平和構築まで、「ジェンダー」の視点から捉え直す1冊。男性中心の権力構造を刷新し、皆が生きやすい社会を作る！

『おどろきの刑事司法 ~“犯罪者”の作り方』

村木 厚子【著】/講談社 (2026/3)



約1分の質問で164日間の勾留、検事の作文で作られる供述調書、証拠改竄や捏造。冤罪に巻き込まれた著者が見た刑事司法の実態とは？取調べの可視化などの制度の見直しで、司法は良くなると訴える。

『世界を解き明かす 地政学』

田中 孝幸【著】/日経BP (2026/2)



これから紛争が増え、ひどい時代になるのか？ニュースには、背景や理由があり、未来は問題の理解が社会に広がるかにかかっていると著者は語る。国際情勢のポイントを網羅した、世界の解像度を上げるための1冊。

『疲労ゼロを習慣化する 今さら聞けない 休養の超基本』

片野 秀樹【著】/朝日新聞出版 (2026/3)



毎日疲れが取れない。休息できていると感じない…。「休息」の正しいテクニックを毎日の習慣にすることで、心身共にリカバリーできるコツが身につく究極の1冊。「行動」「思考」「食事法」の3つの切り口から解説！

『仮放免の子どもたち』

～「日本人ファースト」の標的～

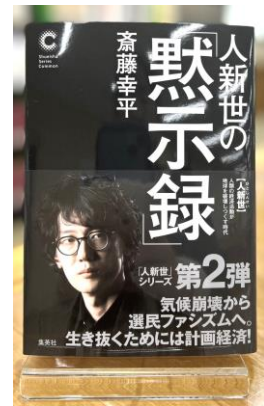
池尾 伸一【著】/講談社 (2026/1)



「この国に生まれたことが罪ですか？」日本で生まれ育ったのに、移動・就労の自由もなく、国民健康保険にも入れず、ヘイト・強制送還に怯える日常。移民・不法滞在者への偏見を、データと事実に基づいて検証する。

『人新世の「黙示録」』

斎藤 幸平【著】/集英社 (2026/4)



気候崩壊により、世界は「恒久欠乏経済」に突入。その欠乏から不安が生まれ、他者を切り捨てる「選民ファシズム」が蔓延していると著者は語る。世界の破滅への行進をどう止めるのか？その秘策を提示する戦時経済論。

『独裁者の倒し方』

～暴君たちの実は危うい権力構造～

マーセル＝ディルサス【著】柴田 裕之【訳】/東洋経済新報社 (2026/1)



「独裁者は側近が作る」と本書は語る。又彼らはその立場上、穏やかに辞任するという出口を持ちえず、常に脅威に晒され続けるとも語られる。「政権のパワーゲーム」という視点から独裁制を読み解き、抑圧なき世界を目指す。

『2030 来たるべき世界』

エマニュエル＝トッド・オードリー＝タン 他【著】/朝日新聞出版 (2026/3)



欧米の分裂と混乱が現実となった今、世界はどこへ向かうのか。そして激動の世界で日本に残された道とは何か。戦争への欲望とテクノロジーの暴走を前にした人類へ、世界最高の知性達が送る処方箋！



新着

『子どもの不登校が心配になったら
知りたいことが全部のってる本』

主婦の友社【編】小林正幸【監訳】/
主婦の友社 (2026/4)



「学校に行きたくない」と言われたら、どうすれば良い？メンタルケアから安心できる居場所作り、出席扱い制度、フリースクールや通信制高校などの進路事情まで、次のアクションに繋がるヒントがわかる。

新着

『続 学校管理職・教育委員会のための
いじめを重大化させないQ&A100』

嶋崎 政男【著】/エイデル研究所 (2026/4)



これまで著者が関わってきた多くのいじめの調査委員会での、学校・教育委員会の教職員から寄せられた質問・感想をまとめて掲載。いじめの未然防止や対応に悩んでいる学校管理職・教育委員会の方々に役立つ書。

新着

『発達障害・「グレーゾーン」の子の
不登校大全』

本田 秀夫【著】/バトン社 (2026/4)



発達障害・グレーゾーンの発達特性を持つ子どもの不登校に焦点当てた本。発達特性がある子だけでなく、特性が目立たない子どもにも通用するサポートの方法を、医師の視点から解説する。

『不登校のあの子に起きていること』

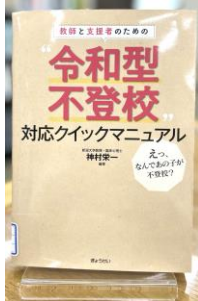
高坂 康雅【著】/筑摩書房 (2025/7)



もしクラスの子が、自分が、わが子が不登校になった時、どんな困難や解決方法があるのか？学校に行かない・行けない彼らを取りまく環境とは？子どもの辛い気持ち、親の孤立などの現状をありのまま伝える。

『教師と支援者のための“令和型
不登校”対応クイックマニュアル』

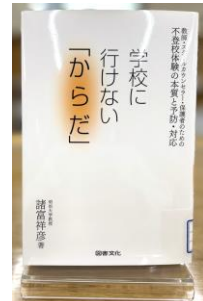
神村 栄一【編著】/ぎょうせい (2024/2)



「学校に原因がなさそうなのに突然不登校」「前日まで行くと行っていたのに朝起きられない」「夜型の生活、ゲーム依存の傾向がある」そんな新しい傾向の「令和型不登校」への有効な対応方法がわかる本。

『学校に行けない「からだ」
～不登校体験の本質と予防・対応』

諸富 祥彦【著】/図書文化社 (2022/7)



不登校の子どもの「からだ」に着目すると、有効な策が見えてくる！不登校体験の本質はからだの変容だと本書は語る。からだの変容を止める「行動活性化」などの具体的な対応策を紹介し、防止策を伝える。

『不登校を見つめ直す32の問い
～安心して通える学校って？』

森 万喜子・千葉 孝司【著】/学事出版 (2026/1)



不登校を防ぐために、学校・地域・家庭では、どんな関わりが必要になるのだろう。安心して通える学校ってどんな場所だろう。不登校を見つめ直す32の問いから、今後の学校・地域・大人の在り方が見えてくる。

『不登校クエスト』

内田 拓海【著】/飛鳥新社 (2024/10)



6歳で「学校に行かない」と宣言し、ホームスクーラーとなった作曲家による自伝的エッセイ。生きづらさに苦しむ子どもや教育・学校との向き合い方に悩む親の背中を押してくれる1冊！